



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THESERVICECLUB FOR THEYMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2021年8月号

NO 539

主が私の右におられるので、私は決して動揺しない。だから、私の心は楽しみ、舌は喜びたてる。体も希望のうちに生きるであろう。
使徒言行録2章25節

ワイズ高年情報難民

吉田 明弘

今年は、これまでのような HANDBOOK & MEMBERSHIP ROASTER (ロースター) が、発行されません。

子どもの頃、毎年春に発行される『プロ野球選手名鑑』は、私にとって格好な遊び道具でした。選手について知る他に、選手の出身校によるチームや左利きだけで編成したりしていました。

ワイズでも、ロースターを本来の目的のほかに、クラブの全国への拡張状況、クラブの盛衰などを観たり、思わぬ発見を楽しんでいました。時には、女性メンバーによる区のキャビネットを組閣したりしていました。

15年くらい前に横浜つづきクラブの林理子さんが、「ロースターはワイズの情報の泉。表紙が擦り切れるまで使わなくては」と言われました。けだし名言です。

今は、ペーパーレス、インターネットの時代、私などは検索が苦手なうえ、面倒くさがり屋。人にも会えず、話せず、ワイズの情報がほとんど入らない「情報難民」

になり、さびしくつまらない思いをしています。

それでもワイズの Zoom の会合の時は、東西のロースターを手元に置いて、知らない顔がおられると索引からクラブ名を探し、個人情報を探ります。

ロースターは、便利な反面、個人情報保護と言う観点から問題があり、地球環境の点でも毎年発行すべきかどうかは、常に考える必要があります。私のような PC 苦手人間にとっては、名簿部分は簡易な物でも毎年欲しい、規約集などは5年に1度くらいに発行し、その間の変更は、その追補が出来ないかと思えます。また「いざたて」年間行事予定、東西日本区の現勢、クラブ親子関連図、区大会の歩み、IBC・DBC 一覧表などがスマホで見れないかと思えます。そうすれば、寝転がっても、外出中でも見ることができて楽しめると思えます。

コロナとんでいけ!



東京オリンピック開会式前の空を飾るブルーインパルス飛行を河原崎和美さんが見事にとらえました。ご本人がつけた見出しは、『人生最後のオリンピック』でしたが、そんなわけがあるはずはないと「コロナとんでいけ!」に代えました。ペーパー印刷はモノクロで、見にくいので、東日本区ホームページ・ブリテン・東京西クラブをご覧ください。P6へ

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

7月の記録			ニコニコ	6,195円	
在籍者数	12人	メネット	1人	クラブファンド	—円
(内功労会員)	1人				
出席者数	11人	コメント	0人	ファンド残高	113,308円
メーカー	0人	ビジター	1人	ホテ校ファンド	6,500円
出席率	100%	ゲスト	0人	ホテ校残高	72,500円
内 Zoom 参加	0人	出席者合計	13人	WHO 参加者	—人

8月納涼例会のご案内

今月の強調テーマ 地域奉仕 YMCA サービス

毎年8月は、話題のお店で納涼例会を楽しんでいましたが、今年は、いつもの例会場で、豪華京料理のお弁当を共にし、マスクをしてお話し大会です。呼び物は、本川悦子さんによるバイオリン演奏とトークです。



日時：8月19日(木) 18:45~20:00

会場：ウエルファーム杉並4F集会室

杉並区天沼 3-19-16

03-5335-7318

会費：3,000円

担当：B班（石井・高嶋・吉田）

開会点鐘
いざたて
聖書朗読・祈祷
開会挨拶・紹介
諸報告
YMCA 報告
演奏とトーク

曲目 バッハ G線上のアリア
サンサーンス 白鳥
クライスラー 美しきロスマリン

会食

ハッピーバースデー

4日 篠原 文恵

13日 神谷 幸男

15日 本川 章

17日 山田利三郎

ニコニコとひとこと

閉会点鐘

会長 鳥越成代

受付：高嶋美知子

司会：石井 元子

会長 鳥越 成代

一 同

吉田 明弘

会 長

会長 他

担当主事・横山 弥利

—7月事務会報告—

日時：7月22日(木) 17:00-18:45

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：石井、篠原、鳥越、本川、
村野、吉田

<報告事項>

2021-2022 年度の予算案が先月提出したものを修正して提案され、承認した。

<協議事項>—例会関係—

①鳥越会長から例会時に卓話者と同じメインテーブルに着席すると卓話がよく聞こえないので会長席を代理の人に代わってもらいたいと要望があった。協議した結果、会長は開会の点鐘までは前に座り、その後は当日の司会者が代わって座ることにした。

②9月の例会において、恒例のホテル学校の留学生奨学金の授与式を行う予定（担当C班）

<協議事項>—例会以外—

①ほとんどのメンバーはコロナ予防接種を済ませたが、収束するまでは油断しないで行動することを確認した。

②今年度から毎月の事業報告を

区に提出することになった。クラブとして部長、区EM事業主任に毎月末に報告する。個人で他クラブの例会やプログラムに参加(ZOOM参加も含め)した場合は、会長または書記に届ける。

③ブリテン8月号は、6頁立てとする。

動画でわかるワイズ スマホでどこでも読める



東日本区 Change2022 委員会が、QRコードから見れるワイズメンズクラブ紹介動画を制作しました。そのQRコードを記した名刺大のカードがクラブ宛てに100枚届きました。常に携行して友人、知人に手渡して、ワイズメンズクラブを紹介するツールとして利用してください。

QRコードは、クラブブリテンや自身の名刺にも刷り込めます。明るい青と黄色でデザインされたカードは、あたたかも、秋空のものと豊作の田圃のようです。

アジア大太平洋地域大会 8月14日 Zoom で開催

第29回アジア太平洋地域大会が、8月14日、台湾・台南においてZoomで開催されます。参加費は無料です。参加申し込みは、<http://2021aspac.ysmen.org.tw/jp/index.php> 東日本区ウェブサイトから出来ます。申込み締め切りは8月7日に延長されました。大会自体も2時間半とコンパクトです。

会計からのお願い

半期分の会費を例会に持参か振込でお願い致します。

振込先

みずほ銀行方南町支店

普通口座 8027928

東京西ワイズメンズクラブ



長谷川あや子部長と鳥越成代会長を囲んだ7月例会



東京山手センターでのハイブリッドあずさ部評議会

－ 7 月例会報告 －

7 月 15 日(木)、あずさ部部長訪問として長谷川あや子さんをお迎えしてキックオフ例会が開かれました。

鳥越成代新会長の会長挨拶では、「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」というスローガンに基づき、これからの心構えのためにワイズについて知識を深めるようにしたいと話されました。

長谷川あずさ部部長の挨拶では、25 周年を迎えたあずさ部の成り立ちに触れられ、創部以来、本来は協議の場である評議会にもホストクラブがアイデアを凝らして、楽しい会として多くの参加者が集ってきたので、あずさ部のメンバー、メネットは親しいのです。今は思うに任せませんが伝統を引き継いでいきたいと述べられました。そしてご自身の部長スローガン「道を拓く～愛と協力によって」に沿って、意欲的に活動していく抱負を語られました。

これまでも当クラブの例会には数多く出席いただけてきました。思えば、鳥越会長も入会当初は長谷川さんは当クラブのメンバーだと思ったとのこと。所属される東京八王子クラブには隣接クラブとして、卓話者情報を共有し、応援し、理解を深めていただいています。私事ですが、大野さん、本川さん、私の同時入会式には東京八王子クラブから沢山の応援参加があり、以後も高尾山の

登山会へのお誘いなど、深からぬお付き合いをしていただいています。

このあと、東日本区から QR コードが印刷されたカードが配られました。会員増強のツールとして「動画で分かるワイズメンズクラブ」のカードを作成し、カードの QR コードを読み取り、スマホでワイズメンズクラブを分かりやすく写真や動画で紹介する内容のものです。

緊急事態宣言下なので、1 時間 15 分という短い時間で残念でしたが、20:00 に閉会点鐘の後、記念写真を撮りました。

(篠原文恵)

出席者：＜メンバー＞石井、大野神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞長谷川あや子（東京八王子）

第 1 回あずさ部評議会 “コロナ撲滅”と銘うって

第 1 回あずさ部評議会（主宰長谷川部長・東京八王子）が 7 月 17 日午後、東京 YMCA 山手センターと各代議員・役員宅をハイブリッドで結んで行われました。

まずは、御園生好子直前部長の挨拶、長谷川新部長への交代式があり、新部長の所信表明がありました。

今回は前年度の決算評議会ということですが、年度初のため新代議員のデビューであり、約 50 人が参加しました。コロナに影響

された決算報告、事業報告が承認され、次々期部長を長野クラブから選出することが決まりました。

前年度事業主査の報告、新会長の挨拶がありました。

Zoom での報告は報告者が聞き手の反応がつかめないため、どうしても短めの話になる傾向があります。持ち時間を決めて司会者と打ち合わせ、図や写真を用意したら、臨場感はありませんが、今後、ますます良くなっていくと感じました。

前年度の事業主査報告、クラブ会長報告は、会場で配られた前年度部報 2 号に記されていました。それぞれが、コロナ禍に翻弄されながらも工夫し、福に転じさせている様子もうかがえました。

クラブから、篠原、高嶋、鳥越、本川、吉田が参加しました。

(吉田明弘)

東京多摩みなみ 野菜プランター栽培講座終了

東京多摩みなみクラブが主宰する「春季プランター野菜栽培講座」全 7 回が、7 月 27 日終了しました。講師は当クラブの 4 月例会に卓話をお願いした同クラブの藤田智さん（恵泉女学園大学教）でした。毎回 Zoom で講義と参加者が送信した野菜の写真を写し、生育状況の評価がありました。

参加者は、帯広から熊本までの 30 人。当クラブの篠原・吉田さんが修了証を受けました。

■国際ホテル専門学校ではコロナ禍でも感染症対策を徹底し、学校説明会や体験入学を実施しています。夏休みは特に未来のホテルリエを目指すたくさんの高校生が参加します。そこでは本校2年生がボランティアとして参加者をお出迎えします。ホテルやYMCAに対する彼らの想いや実体験をきっかけに在校生と参加者が繋がるのが、80年を超えるホテル学校の歴史には欠かせない要素だったりします。この経験を通じて、在校生の成長の一助になればと切に願っています。

■全国のYMCAが協力して長年取り組んでいる「ウォーターセーフティーキャンペーン」(水上安全教育)の一環として、6月27日、山手コミュニティーセンター

で幼児・小学生の親子を対象に着衣泳体験会を実施し、計39人が参加。子ども向けの「YMCAウォーターセーフティーハンドブック」を小学校等を通じて地域に無料配布した他、東京YMCAホームページ上にも掲載しています。ウエルネス東陽町でも同様の取り組みを行っています。

■6月28日～7月3日に、「第24回会員芸術祭」が開催され、会員、留学生、メンバー他、関係者40人から51作品の出展がありました。昨年は新型コロナウイルス感染防止のためホームページ上の開催としたが、今年は東陽町センターを会場に実施しました。

■7月12日から緊急事態宣言が出されたことを受け、予定していた宿泊を伴う夏キャンプ(10プログラム)は中止となりました。代

替プログラムとして、都内の施設を利用した日帰りプログラムを実施する予定。コロナ禍の影響を含め経済的な理由でプログラムに参加が難しいご家庭を対象に、所得に応じて参加費を補助する「フレンドシップファンド」を積極的に活用しています。

(担当主事 横山弥利)



宿泊体験学習

老人ホームでの最近の暮らし

山田 紀子

コロナ禍でどちらも大変なことと存じます。私どもは、2回目のワクチン接種がすんだ今も、ほぼ軟禁状態です。幸いに私は、予防対策がしっかりとれるため、独りで行動することを許可されて、近所の散歩や決まった病院に通院出来ますが、入居者のほとんどがフレール状態だったり、認知症が進んだりしてお気の毒です。家族の面会も15分間だけで、なかなか会えないことも原因かと思えます。

先日、調理場の電気釜の具合が悪く、「しん」のあるご飯が出されて、私と唯一のお友達がスタッフに注意しましたが、他の方々は黙っていただいております。山田に、なぜ完食したのか聞きましたら、戦争体験者はとても食物に不自由したので我慢して食べたとのことでした。大部分の方は無反応でした。

こんな状況ですので、私たちは、ホームの宣伝係にされて、オ

ンライン授業の音楽クラブではドイツ語の特訓を受けて、「第九」の「歓喜の歌」を歌わされたり、一流ホテルのシェフ指導のもと、レストランで提供されるようなデザートをつくっています。他にお花の世話や体操は毎日やっていますが、限られた中での生活ですから、体力は落ちる一方です。

山田は、「大人の塗り絵」に夢中になっています。色鉛筆で細かい下絵を塗りつぶしていくのですが、色を重ねたり、配色に頭を使います。他に音楽クラブや簡単な料理教室、体操もやっています。

入居者を認知症か、予備軍と思っているような対応をされることあって、すぐ反応するのが私とお友達なので、封じ込めのためにやらされているのかも知れません？

本当に感謝しているのは、スタッフの皆さんです。こんなに長くウィズコロナの中で頑張ってくださいありがとうございます。今年も大卒の男性と女性が2人ずつ入社され、「3K」の代表と言われ現場で働い

てくださっています。ほとんどが地方出身者で、祖父母に育てられたとか、可愛がられたという方々で、とても老人に接する態度が自然体と感心しています。

入居して2年半になる今、2人とも、何とか順応して生活できるようになっています。

今は、ふたりとも何とか順応して生活できるようになりましたので、近況報告をさせていただきました。



山田利三郎さんの塗り絵「元気な池の鯉」はA4サイズです

☆☆☆インタビュー☆☆☆
樋口 順英さんに聴く
東京グリーンクラブ
* * *



—樋口さんに初めて会ったのは2015年の東京西クラブのWHOウォーキングの「神田川くだりシリーズ」の時でしたね。

「そうでした。3回目の妙正寺川との合流地点あたりから参加させていただきました」

—WHOへはどうして。

「クラブの例会で聞きました」
—シリーズの最終回には、老舗船宿を経営する東京グリーンクラブの新倉健司さんの船を貸し切って、グリーンクラブのメンバーのガイドで神田川と隅田川を楽しみました。その時、樋口さんには舟に乗らない人を両国の街に案内してもらいましたね。

「リバーガイドはまだヘタクソだったので先輩にお任せし、自信があった両国の町案内を志願しました。以来参加させていただいています」

—樋口さんが、ワイズに加わったいきさつは。

「個人で気ままに江戸東京の散策を楽しんでいた頃、友人に神田川船の会のイベントに誘われ参加したのがきっかけです」

—ワイズやYMCAについては、予備知識がありましたか。

「まったくありませんでした。はじめて例会に出席させていただいた時は、敷居が高く古風な会だと思いましたが、さほど抵抗感はありませんでした」

—お生まれはどちらですか。

「大阪府高槻市です」

—子どもの頃、どんな子でしたか。

「几帳面な性格、根気強かったようです。絵を描くことが得意でした。小学校での嫌いな学科は体育でした。体が小さく、運動神経が悪いといわれるのがいやでした。よくいじめられました。大人になってからもそうですが…」

—高校でのクラブ活動は。

「歴史研究部で、古墳時代の住居跡などの発掘をしていました。地味でしょう？ 成績も地味で真ん中より下でした」

—東京へは。

「父の転勤で高校卒業と同時に東京・杉並区に来ました。初めての東京で土が黒いのに驚いたことを覚えています」

—大学は法学部ですね

「勉強はあまりしませんでした。多くの先生や友達から物の考え方を学びました」

—就職は大手の総合電機メーカーでした。

「入社以来、調達部門をやっていました。とくにグローバル契約に携わった期間が多かったです。定年後は、関連会社で後進の指導にあたり、今年春にサラリーマン生活に区切りをつけました」

—生産会社の調達部門は、原料、資材、部品などのすべてにわたり、それぞれの業界の国内外の技術情報、価格動向、技術力など常に幅広い情報が求められる仕事ですね。

「昔の調達部門は、一般的に工場の裏口にある地味な職場でした。しかし今ではグローバル経営に貢献する部門として注目されています。このため大切なことは、調達取引先をビジネスパートナーだと考えることです。とかく取引先を自社の生産の補完先、下請先と思いがちですが大きな錯覚です。コンピューターソフトウェア開発、教育講師派遣など各種業務委託などを幅広く取扱うようになりました。ますます「良識」と「遵法」が問われる部門となっていま

す」

—樋口さんは、「神田川船の会」だけでなく、他でも英語のガイドなどもされているそうですね。

「東京都水辺ラインでボランティアガイドをやっています。昨年2月までは、日本語と英語の両方のガイドをやりました。今はコロナでお休み状態です」

—クラシック音楽にウンチクがあり、ブリテンのコラムは他クラブに愛読者がいるほど。料理もされ、浮世絵にも詳しい。とにかく幅が広いですね。

「クラシック音楽は、3才頃からおじさんの家の蓄音機でSPレコードを聴いて育ったのがきっかけです。料理はコロナ禍で時間があつたので酒肴をつくり始めました。浮世絵は江戸町人文化の勉強になります」

—7月からクラブ会長をされていますね。何がしたいですか。

「対面の機会が減っている中でも、50年近く培ってきたメンバー同士の信頼感が維持されています。すごいことだと思います。コミュニケーションを大切にしブリテンを充実していきたいです。また神田川船の会を復活できればなあと思います。合わせ、青少年の課外環境学習にも力をいれたいと思います」

—「事業」と「クラブ」の関係が難しいですね。

「今後ワイズに入会される方々は、今まで以上にバラエティーに富んだ価値観や意識、興味などをお持ちのことでしょう。メンバーがイベントに全部参加することは難しく、自分の関心や興味にもとづき選択することになります。そのなかで「例会」こそメンバーの心の拠り所として足が地に着いたものでありたいです。われわれもさまざまな人を受け入れる勇気と寛容さが必要だと思います。それができるのがワイズだと思います。まさに曼荼羅の世界ですね」
—有難うございました。(吉田明弘)

私の大切な人

村野絢子

豆腐と鉄

浜田山駅近くで豆腐屋をしていた川上さんは、お父さん(夫)が倒れて28年、入院先が変わっても毎日会いに通った。お父さんが「俺は幸せだ、有難う」と毎日言ってくれるのが嬉しいといつも笑顔でそう語っていた。毎朝6時半・塚山公園の広場のラジオ体操の仲間の一人だ。口がきけなくなってからは、笑顔と両手の丸で気持ちを伝えてくれたという。コロナで5か月ずっと会わせてもらえなかった。今は月に1度ガラス越しに会えるだけでさびしいと言う。夫婦ともに福島出身で上京し、ずっとお父さんの作る豆腐を自分が売って良く働いた。

永福町に住み、同じ教会の友人であった鉄鋼マン

の兼子さんは、福岡に引っ越して間もなく交通事故に遭い、身体が不自由になった。ところが夫人は「今はいつも一緒に居られて幸せなの」という。彼は今まで教会・テニス・児童を守る会などの活動に忙しく、ゆっくり話す時間もなかった、私はいつも待っている人だった。ところが今は何をしても「ありがとう」を繰り返し、「もし時間があつたら讚美歌を弾いてくださいますか」と言われれば「いいですよ」と応じ、一緒に歌う。彼がいつも私の中にいるのが嬉しいと彼女は言う。子どもたちにお別れの言葉を伝え、神のみもとに召された。10年に亘るお二人の幸せな時間であった。

形こそ違っている、深い愛の絆で結ばれた豆腐屋さんと新日鉄の素晴らしいご夫婦であった

男、しかも…の買い物

昨年の話だが、「チノパンツを買うなら、ユニクロ」と聞いて、早速新宿駅西口店に行った。

店内は、コロナだというのに、商品と若者であふれていた。普通の店舗なら「何かお探しですか」と店員が寄ってくるのだが、知らん顔。たまりかねて、声をかけた。「チノパンツはどこですか」「あそこです」「Oh I see」。

なるほど色別、サイズ別に高く積まれていた。通りかかった店員をつかまえ、「これをはいてみたいのだけど」、「あちらにフィットルームがあります」。「Oh I see」。フィットルームはあったが、メジャーを持った店員がいない。そばにいた若い男性店員に訊いたら「自分で丈を合わせて、これで指定してください」と書類をはさむクリップを渡された。「Oh I see」

なるほどと思い、カーテンの中に入った。極端に狭い。自分のスラックスは、やっと脱げたが肝心のチノパンツは長くて、きついのである。おまけに生地が厚くてなかなか足が入らない。丈がウエストに対応しているのか、やけに長い。途中で一休みした。片足立ちだから安定しない。両手でパンツをつかんで、「おととととと」。

昔の「電線音頭」だ。カーテンの向こうへ飛び出しそうになる。必死にこらえて何とか片足だけは出して、丈を決めようとしたがどうやっても足首に手が届かない。しゃがみこめば出来るがそれでは測れない。「お〜い」と店員を呼んだ。親切にしゃがみこんでクリップを止めてくれた。「これはいくらなんでもきついんだけど」。「これって、スリムサイズです」{Oh no!}。

ノーマルサイズに取り換えてきてまた最初からやり直し。その後、別の階で会計をすませ、引換券もらって終わりとなった。疲労と、妙な達成感があった。

後日、購入を勧めてくれた人に報告した。「えっ！ 本当に買いに行ったのですか。あそこは、若い人が行く店ですよ」。(吉田明弘)

**「コロナとんでいけ！」
人生最後のオリンピック**

(p1から) 2020年7月23日。東京オリンピックの開会式当日、ブルーインパルスが五輪の輪を描くとのことで、娘のマンションのバルコニーで椅子を並べて待機していました。お天気は良いものの、雲が多く果たして綺麗に見られるのか。SNSの情報では入間を飛び立ったとのこと。ほどなくして轟音を響かせ、五色の煙を吐

きながらブルーインパルスがやってきました。目の前です。興奮が抑えきれません。唯々感動しました。(河原崎和美)

編集後記

7月18日、神谷幸男さんからメールが届きました。タイトルは「8月号原稿・豆腐と鉄」。思わず「まいったな」と言ってしまいました。予定外の原稿は困ることがあるのです。

このところ、ブリテン編集は、スペース不足で苦勞しているのです。誌面に、毎月決まった原稿を入れると新しい原稿を入れる余地がないのです。決められたものは、はずせない、依頼したものはボツにできないのです。原稿が足りない場合は、足りないこと自体も記事になるのです。思いがけない原稿は嬉しい時も困ることがあります。

現在、ブリテンは4頁立てですが、7月号をご覧になれば判りませんが、6月例会の写真も入れられませんでした。今月号は6頁立てにさせていただきました。気分的に余裕をもって編集出来ました。

ところで、神谷さんの原稿はどうなったのか。ご安心ください。あれは村野絢子さんが毎月連載しているコラムの予定していた原稿で、故あって神谷さん経由でメールが届いたものでした。(AY)